

子どもの興味・関心を理解し、親子で一緒に育てる集中力

5歳を迎える頃になると、子どもの興味の対象は外へ向かうようになり、なかなか一つのことに集中して取り組めなくなります。この時期に大切なことは、子どもが何に関心を持ち、どんなことを大切にしているかをしっかりと「観察」して「理解」してあげることです。

Ambitious
清水絵津子さん

ビジネスマナー講師、コンサルタント。企業、団体、ゴルフ場等での接遇（ビジネス）マナー・営業マン研修や講演活動を行う「Ambitious」代表。形だけでなく、徹底して現場で即実践出来る、わかりやすい教え方が好評。



興味や関心の対象が、それまでの内向きから外へと向かい始める5歳児。なにか一つのことに取り組んでも、集中力が続かなかったり、じっとしていられなかったり、すぐに飽きてしまうのはそのためです。この時期のパパやママが心がけるべきこと、それは我が子がどのようなことに興味を持ち、何を大切にしているのかを観察して、理解してあげることです。例えば、ゲームやおもちゃで遊ぶことが好きな「体感型」なのか、DVDやTVを観ることが好きな「視覚型」なのか、それとも音楽を聴くことが好きな「聴覚型」なのか、子どもの普段の様子をよく観察することで、その興味の“方向性”を知ることができます。興味の傾向が分かれば、それぞれの個性にあわせた遊び方、関わり方ができるようになります。「体感型」であればアニエーズメント施設やテーマパークに出かけたり、「視覚型」や「聴覚型」ならばアニメや音楽を一緒に楽しんだり、積

極的に子どもの興味あることに関わってあげましょう。そして、一緒に遊ぶ時には、①「時間を決める」、②「約束事をつくる」、③「子どもの気持ちを聞いてあげる」という3項目を習慣づけましょう。5歳を迎える頃の子どもは、時間を意識したり、約束を守ったり、自分や相手の気持ちを考えることを、少しずつ意識できるようになっていきます。そして、こうした親子の関わりの中から、少しずつ集中力は育っていくのです。小学校入学までに「集中して取り組む」態度を養うことで、お子さんも戸惑うことなく新しい社会（学校）生活に順応できるようになるはずです。

